

年代ごと、世帯ごとに理想の家はさまざま……

ライフスタイルに 合った住まい

少子高齢化が進む中で、夫婦と子どもからなるファミリー世帯が減り、シングル世帯が増えつつある。

2015年には全世帯の3分の1がシングル(比率トップ)となる見通しだ。
家族形態に応じて、住まい選びも明らかに変わってきた。

それぞれの世帯が、自分たちに合った住まいを選ぶ時代へと、変化は加速中だ。



Family



Single



Active Senior

「将来、貸しやすい」がキーワード

これから不動産市場をけん引する存在になりそうのが、シングル世帯だ。特に都市部のシングル層は、マンション取得意欲が旺盛。男女比では圧倒的に女性シングルの動きが目立つ。どんな住まいが求められているのだろうか?

単身者の持ち家率は 圧倒的に女性優位

Y・Yさん（39歳・会社員・女性）は20歳のときから賃貸住宅に一人暮らし。「家賃を払い続けるのはもつたいない、買うなら消費税率が上がる前に」と、2014年3月、中央区内の東京メトロ日比谷線沿線駅徒歩4分の1LDK（41m²）のマンションを購入した。

物件に求めた条件は、東京23区内の駅近。「自分の通勤に便利で、将来、結婚したときも貸しやすい」からだ。探し始めて1カ月、6件目に「駅近で南向き、通勤時間は30分。再開発エリアに近く地価も上がっている」という今の住まいに出会い即決。

価格は3900万円。コツコツと貯金した1900万円を頭金に充て、20年ローンで2000万円



↑「ホテルライクな暮らし」をテーマに、白を基調としたインテリアで統一。壁にかかるパネルはY・Yさんの手作り
←半透明のスライディングウォールでリビングルームと仕切られたベッドルーム

DATA

Y・Yさん（39歳・会社員）
立地●中央区 駅徒歩4分
間取り●1LDK・41m²
価格●3900万円
購入時の年収●約700万円

を借り入れた。月々の支払いは、ローンの返済9万円に管理費と修繕積立金を加えて約11万円。最初から繰り上げ返済を視野に入れた資金計画だったため、「あと5年ほどで完済する」という。

「賃貸より広くなつたし、床暖房や24時間ごみ出しOKなど、設備・仕様が格段に良くなり満足しています。何より、自分の家があるという安心感が大きいですね」

I・Hさん（31歳・会社員・男性）は、29歳のとき目に東急区内の東急日黒線沿線駅徒歩5分の1LDK（40m²）を購入。「家賃がもうない、そろそろ買いたい」と思っていた矢先に出た物件で、「ここならいざれ売却できるし、明らかに割安感があった」という。

W・Mさん（36歳・会社員・女性）の住まいは、大田区内の東急池上線沿線駅徒歩2分の1LDK（31m²）。30歳のとき、実家から独立する際に「買えば資産になる」

り上げ返済も考えていない。月々の支払いは、従前の家賃を少々上回る程度。「でも、さくっと買ったわけではないですよ。生活に余裕があるわけではないので。ただ、確かに安心感はある。たまたまそれなりに愛着はある。現実的には寝に帰るだけですが……」

W・Mさんは、駅近で将来、貸すことも考えて駅近でありますことと、地盤の良さにこだわって探し、2カ月で8物件を見つけて「実家にも会社にも30分以内で、学。周辺にはスーパーや商店街もある。唯一の完成物件で安心感も強かつた」と、現在の住まいに決めた。

